

議題（2） アセットマネジメントの推進について

- アセットマネジメントでの保全の計画は優先順位をつけてやるということだったが、ため池を例にとると、使えない施設の除却を計画に織り込まないのか。また、除却のためのコストは組み込まないのか。
- 老朽化した施設を廃止して、新たな施設を作る事後保全ではなく、既存の施設を適切に改修し、長く使用することでトータルコストを下げる予防保全を取り入れることは、民間でも取り組んでいるが、非常に大事なこと。
- インフラの予防保全については、限られた予算で優先順位をつけてどういう基準でやっていくのかという方針をきちんと示してやっていただきたい。そのためには部署間の調整も大事となる。
- 公共工事における新しい技術や工法の導入は、施工実績が無いと採用しにくいと思うが、実績は少なくとも良いものは是非積極的に採用してほしい。県内の中小企業もいろいろなことにチャレンジしている。既にトライアル発注制度もあるが、なかなか使われていないので、そういった施策も絡めて活用をお願いしたい。
- 県道から市道に変更された道路について、県はどこまでフォローを行うのか。
- 各市町村とも、橋梁・トンネルの状況はしっかり把握している。検査も今後行い、優先度の高い所から各市町村も取り組んでいくと思う。

- アセットマネジメントについては、社会保障問題と同様に重要なテーマで、待ったなし問題だと認識している。

- アセットマネジメントは、短期的な取組には馴染まない。基本的な点検を行い長寿命化計画を定め、計画的に推進する枠組みになる。これまで、計画に基づいて予算を措置し、その予算がどういう実績で推移しているのかを示したうえで、今後の計画に基づいてどういう予算措置を講じていくのかという、予算措置の考え方と絡めて計画の議論が必要だと考える。

- 一般県民がインフラを利用する際には、国、県、市といった管理区分は関係ない。実際の工事などを一体で行うように、工事の考え方や予算の調整など、円滑に進めるためには連携が欠かせない。

- 市町村立学校の耐震化が県立学校よりも遅れているが、子どものほとんどは市町村立の学校に通っているのに、県立ではないということで耐震性が後回しにされているような気がしている。

- 統廃合の問題を考えると、保護者としては耐震性を求めながらも、果たしてお金をかけても、実際この学校が何年ここに維持できるのだろうかとの不安がある。学校教育は予算とは関係なく優先的にとの考えはありがたいが、結局、耐震性を進めることで税金の負担が回り巡って次世代にくることを考えると果たしてそれでいいのか。逆に、そういう考えが統廃合につながっているという見方もある。

- 統廃合などを理由に学校を新しく建てる場合にも、人口が減っている中で、何十年後かに再び統廃合の対象となることが予想される場合、お金をかけて新校舎を建てるのが良いのか。住民としてはうれしい部分はあるが、行革としての視点で考えると、これから建てる建物の耐用年数と利用する年数が同じぐらい必要かどうかを考える必要があると思う。

○例えば、教育の現場と地域振興の現場が手を結んで、広域的連携でもよいので、複数地域を対象とするような施設整備を、長期的な視点で考えて予算を組んでいただけないと、無駄となってしまう例も出てくる。

○県が監督権限を持っている民間の介護福祉関係施設について、地震対策、津波対策、耐震化、防火対策について、県は指導できないのか。県が民間の介護福祉施設に関与できるのは運営だけなのか。